

## 佳作 心と心をつなぐ紐



ファム クイン ヌー  
PHAM QUYNH NHU  
国 籍 ベトナム  
職 種 介護  
実習実施者 社会医療法人芳越会  
監理団体 ICS 協同組合

こぼれ桜が見えるときには初めて日本に来た瞬間をした。3年間、日本で働いている介護実習生です。時間がたつのは早いものです。

「介護は心だ」という人がいます。そのとおりののですが、私には少し「違うな」という気持ちがあります。それを一言で言うと「つながり」です。「利用者さんの心から、私の心までの見えない紐でのつながり」となります。利用者さんにとっても私にとっても精神的な薬のようなものです。

人が生活するには苦勞は避けられません。日本のことわざには「若いときの苦勞は買ってせよ」というものがあるそうです。特に日本語が片言から足らない経験まで介護実習生には難しいです。この体は私のものではないと感じるほど、ゆううつになり、まるで、出口のない森に迷っているような気持ちになったこともあります。でも、そのとき、利用者さんの心と、私の心をつないでいる見えない紐で、もう一方の端を持っている利用者さんから、正しい出口の方向に引っ張ってもらいました。その瞬間、「見えない紐でのつながり」が薬の効果のように、私を回復させてくれました。この紐はお互い助け

合える効果を持っています。「利用者さんが幸せになれば私も幸せになる」という効果です。

人は年とともに健康がだんだん弱くなっていくものです。でも利用者さんが毎日元気でいて、好きな食べ物を食べ、簡単な挨拶を交わす。そのような様子を見ると、すこしでも改善したことに安心を感じ、これからも頑張ろうと思う気持ちになります。老人ホームは高齢者に最高の介護を提供する場所です。しかし、故郷と呼ばれるように、どんなに頑張っても100%には至りません。なぜかという、そこには家族はいないからです。利用者さんには認知症になっていても、家族を切り離して考えることはできません。それで親しい友人でもあるように努めています。相手の話を聞いたり、利用者さんの明るい笑顔を見ることができて、お年寄りが幸せそうにしているのを見ると、私の介護の仕事の概念である「利用者さんの心から、私の心までの見えない紐でのつながり」という現在の価値観を大切にしていきたいです。

最後に、この文章を通じて、家族や周りの人から愛されているすべての人に心からの言葉を送りたいと思います。生きている各瞬間を大事にしましょう。時は過ぎていきますが、お互いに共に過ごした時間の笑顔や会話は心の中に残り続けます。「認知症」という病に罹っていても、心が愛でつながっていれば、必ず愛が返ってくる。年齢、国籍、肌の色もなく、ただ心と心をつないで、お互いに誠意を持って、理解し合えばいいのです。そうすれば、あなたの人生は幸せで価値のあるものになるでしょう。私たち一人一人は大木の枝のように、この世界で大切な役割を担えます。心と心をつなぐ見えない紐は響き渡る楽しい旋律を運ぶ弦のようなものになります。